

RoHS 指令対応

イーサネット端末 デジタル入出力ユニット

LX - 3000Roシリーズ

取扱説明書

エムシーアイエンジニアリング株式会社
〒194-0212 東京都 町田市 小山町 7 8 9 - 9
TEL 042-705-8312 FAX 042-794-8317



URL : <http://www.mci-eng.co.jp>
E-Mail : welcome@mci-eng.co.jp

目次

【1】ご使用前に

[1 - 1] 機能の紹介	_____	2
[1 - 2] 取り扱い上のご注意	_____	3
[1 - 3] 外観	_____	4
[1 - 4] 仕様一覧	_____	5

【2】使用方法

[2 - 1] 使用準備	_____	7
[2 - 2] 入出力端子	_____	8

【3】操作方法

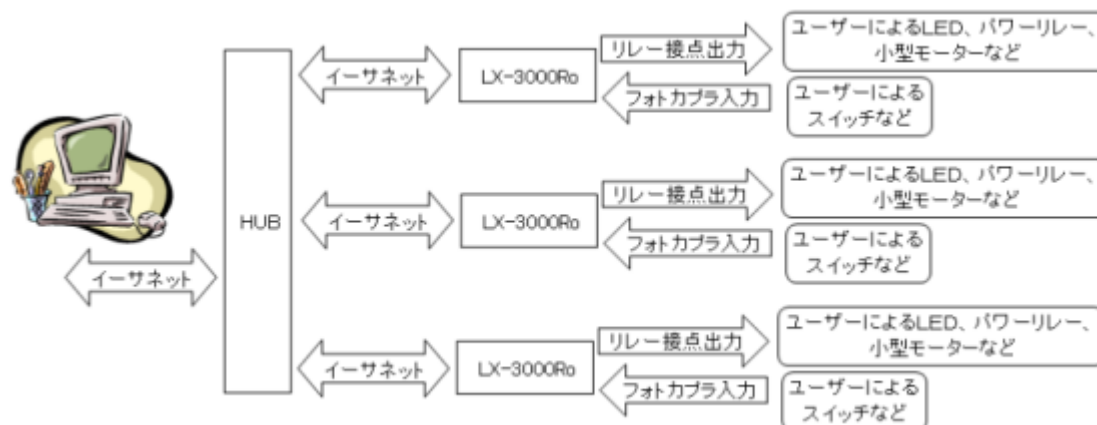
[3 - 1] 概要	_____	10
[3 - 2] 付属DLLの関数	_____	10
[3 - 3] IPアドレスの設定	_____	15

[1] ご使用の前に

本説明書は、「LX-3000Roシリーズ」について、前半でハード的な取り扱いに関して、後半ではパソコン側でのソフト的な操作に関して説明しています。
本書では「LX-3000Roシリーズ」を「本機」と記述してある場合があります。

[1 - 1] 機能の紹介

LX-3000Roシリーズはイーサネット（LAN）を通してパソコンなどからコントロールできるデジタル入出力ユニットです。パソコンと本機間の接続概念図を下記に示します。



本機はケース入りタイプの箱型ユニットで、電源はDC5Vを使用します。
内部にデジタル出力（リレー最大7点）とデジタル入力（フォトカプラ最大7点）を装備しており、パソコンなどからLANを通してリレーのON/OFF制御、フォトカプラ入力の読み取りができます。

リレー接点はメークまたはブレークをジャンパ設定で選択できます。

フォトカプラの入力は双方向ですので入力信号の極性を選びません。

下表に本シリーズのバリエーションを記します。

型 式	入力（フォトカプラ）数	出力（リレー接点）数
LX-3007Ro	なし	7点
LX-3016Ro	1点	6点
LX-3034Ro	3点	4点
LX-3052Ro	5点	2点
LX-3070Ro	7点	なし

本機を便利に使っていただくために下記のオプション品を用意しました。

オプション名	規 格 ・ 機 能 な ど
LX-3000Roシリーズ用ACアダプタ	LX-3000Roシリーズ用スイッチングACアダプタ DC5V/1A
DINレール取付アダプタ	LX-3000RoシリーズをDINレール（35mm）に取り付けることができます。 LX3000Roシリーズ本体と同時に御注文下さい。 装着して納入します。 （本体ケースには標準のままでは装着穴がありません）

【 1 - 2 】 取り扱い上のご注意

- (a) 本機は、DC 5 V \pm 5 % 電源で使用して下さい。
高温多湿の場所では、使わないで下さい。
- (b) 本機が組み込まれたシステムの運用によって誤動作・故障が生じた場合に起こりうる各種の損害の回避措置は同システムの設計・製作に別途付加・反映させて下さい。
本機には前述の機能は無く、本機が原因となって起こった損害でも弊社にはその責にありません。
付属のソフトウェアについても同様に弊社にはその責にありません。
- (c) 保証期間は納入日から1年です。ただし当社に責のない修理は有償になります。
なお、この保証期間は、日本国内のみ有効であり、製品が国外に搬出された場合は、自動的に保証期間が無効となります。
- (d) 上記保証期間中に納入者側の責により故障を生じた場合は、その機器の故障部分の交換、または、修理を納入者側の責任において行います。

ただし、次に該当する場合は、この保証の対象範囲から除外させていただきます。

需要者側の不適当な取扱い、ならびに使用による場合。
故障の原因が納入品以外の事由による場合。
納入者以外の改造、または修理による場合。
その他、天災、災害などで、納入者側の責にあらざる場合。

なお、ここでいう保証は、納入品単体の保証を意味するもので、
納入品の故障により誘発される損害はご容赦頂きます。

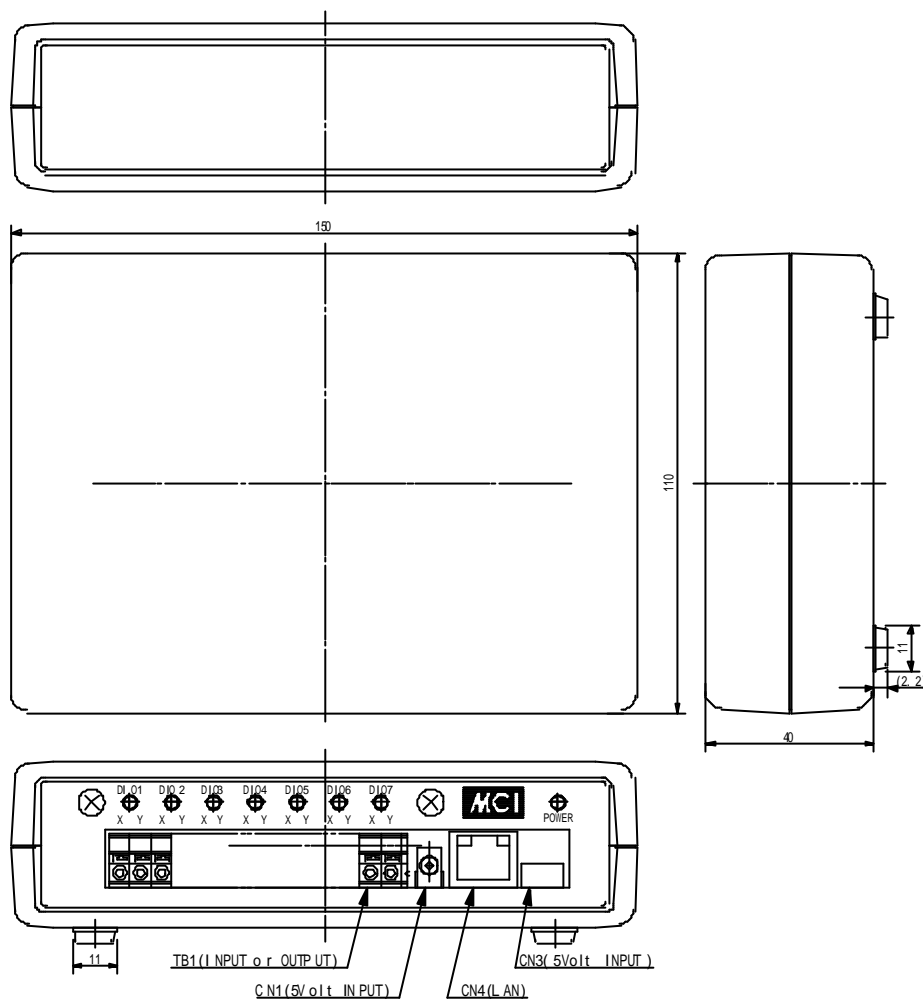
- (e) 修理・保守について
修理の必要が生じた場合、当社まで輸送して下さい。出張修理はご容赦頂きます。
輸送に関わる費用は互いに発送側の負担とします。
また、適格、迅速な修理のため、故障状況、原因と思われる点などをメモでお知らせ下さい。

修理・技術的質問などは入手経路の如何にかかわらず当社宛に直接御用命ください。
商社等を介されますと意思疎通の不正確・誤解、また対応速度・費用の点でも不利になるかと思われま

本製品は全数動作確認のうえで出荷されています。
お手元のシステムに導入当初から不具合の場合は、適用方法・手順・設定・接続・ソフトウェア等の不備による可能性が高いので事前に御相談ください。

サポート窓口 E m a i l : welcome@mci-eng.co.jp
F A X : 0 4 2 - 7 9 4 - 8 3 1 7
U R L : http://www.mci-eng.co.jp

[1 - 3] 外観



[1 - 4] 仕様一覧

項 目		規 格		備 考
使用環境	製品構成素材	RoHS規制対応部品使用、生産工程において規制物質の意図的混入無し		
	周囲温度	0 ~ 40		
	周囲湿度	45 ~ 85%RH		
電源	使用電源電圧	DC5V ± 5% / 1A		
	電源入力方法	CN3	ナイロンコネクタ	同時入力不可
		CN1	ACアダプタ入力ジャック(センタ+) *1	
通信I/F	イーサネット	10BASE-T / 100BASE-TX		
	コネクタ	RJ45		
デジタル出力	点数	メカニカルリレー接点出力: 「[1 - 1] 機能の紹介」を参照		
	出力取だし方法	TB1	スクリーレス端子台	
	端子台適合電線	単線: 0.4mm ~ 1.6mm		AWG26 ~ AWG14
		撚線: 0.3mm ² ~ 1.25mm ²		AWG22 ~ AWG16
	定格負荷	AC100V / 0.4A、DC30V / 2A		抵抗負荷において
動作復旧時間	5mS / 5mS以下		チャタリング含まず *3	
デジタル入力	点数	フォトプラ入力: 「[1 - 1] 機能の紹介」を参照		
	信号入力方法	TB1	スクリーレス端子台	
	端子台適合電線	単線: 0.4mm ~ 1.6mm		AWG26 ~ AWG14
		撚線: 0.3mm ² ~ 1.25mm ²		AWG22 ~ AWG16
入力電流	12V ~ 24Vドライブ入力: 8mA以下			
筐体	外形寸法	150w x 110d x 40h		突き出し部含まず
	重量	0.3kg		
付属品	取扱説明書(本書です)			1冊
	サンプルプログラムを収納したCD			1枚
	電源入力(CN3)用	コネクタ(XHP-3: JST製)		1ヶ
		ピン(BXH-001T-P0.6: JST製)		3ヶ

*1: 電源ジャックに挿入可能なプラグの規格はEIAJ(RC5320A)電圧区分2です。
 外径: 4.05、内径: 1.75、のプラグ(センタ+)が使用できます。
 参考例: MP-202(マル信無線電機(株)製)

*3: チャタリング(バウンシング)時間は約20mS程度であり、リレーが疲労すると大きくなります。

参考資料：リレーの仕様（G6E・オムロン（株）製）

接点定格

（抵抗負荷（ $\text{COS} = 1$ ）において）

定格負荷	AC 125V 0.4A	DC 30V 2V
定格通電電流	3A	
接点電圧	最大 AC 250V	DC 220V
接点電流	最大 AC 3A	DC 3A
開閉容量	最大 50VA	60W
最小負荷（参考値）	DC 10mV	100 μ A

リレー性能

（表は初期における値です。*印は実力値です。）

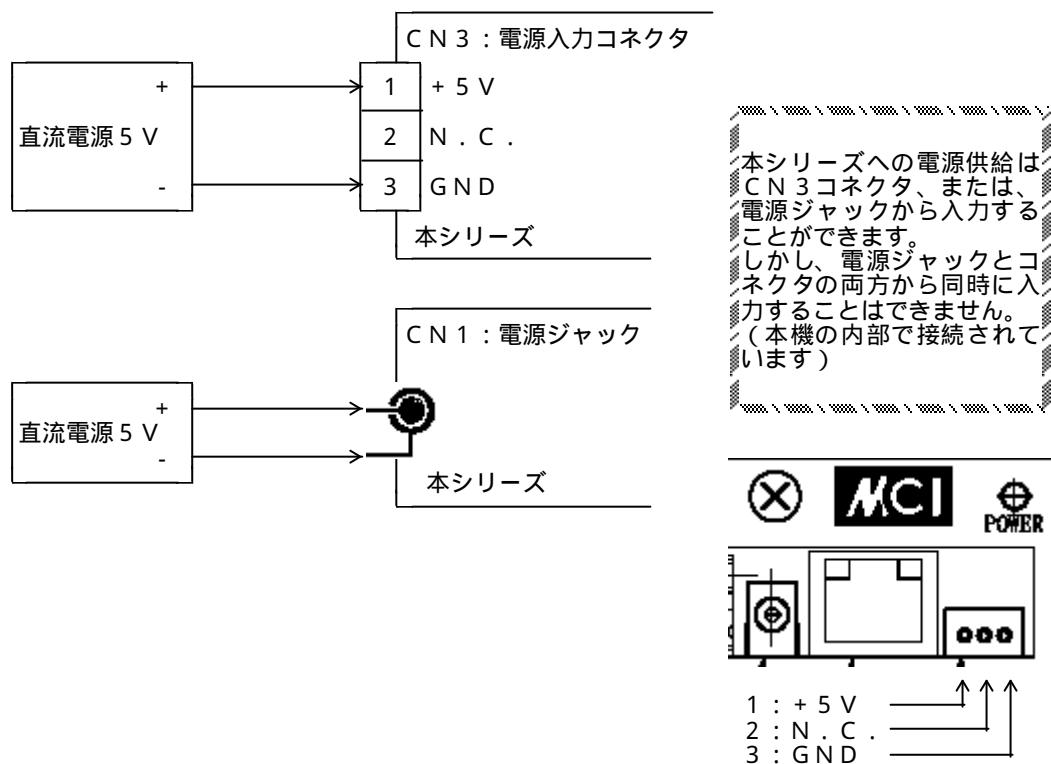
接触抵抗	50m 以下	
動作時間	5mS以下（*約2.9mS）	
復帰時間	5mS以下（*約1.3mS）	
最大開閉頻度	機械的	36,000回/時
	電機的	1,800回/時（定格負荷）
絶縁抵抗	1,000M 以上（DC 500Vメガにて）	
耐電圧	AC 1,500V 50/60Hz 1分間 （ただし、同極接点間はAC 1,000V 50/60Hz 1分間）	
耐衝撃電圧	1,500V 10 \times 160（ μ S）（FCC Part 68）	
振動	耐久	10~55Hz 複振幅5mm
	誤動作	10~55Hz 複振幅3.3mm
衝撃	耐久	1,000m/S ² （約100G）
	誤動作	300m/S ² （30G）
寿命	機械的	1億回以上（開閉頻度36,000回/時）
	電氣的	10万回以上（AC定格負荷 開閉頻度1,800回/時） 50万回以上（DC定格負荷 開閉頻度1,800回/時）
重量	約2.7g	

[2] 使用方法

[2 - 1] 使用準備

本機を使用するためには下記のものがが必要です。

- (a) パソコン
OS : Windows 2000以降
I / F : 10BASE-T / 100BASE-TX
- (b) LANケーブル
コネクタ : RJ45
長さ : 必要メートル (規格 (100m) を越えないこと)
タイプ : 本機とパソコンを直接接続する場合はクロスケーブル
HUBを介して接続する場合はストレートケーブル
- (c) 直流電源
本機の電源として外部からDC 5V ± 5%の範囲内で安定化された電源を供給して下さい。
電源の電流容量は1A以上が必要です。



[2 - 2] 入出力端子

[2 - 2 - 1] 電源入力

(a) 電源入力コネクタと (b) 電源入力ジャックの両方に別々の電源から入力する事は止めて下さい。

(a) C N 3 : 電源入力コネクタ

本機の必要とする電源はDC 5 V \pm 5 %の範囲内の安定化されたものが必要です。

ピン番号	名称	入出力	備考
1	+ 5 V	I N	電源ジャックのセンターと接続されている
2	N . C .		なにも接続されていない
3	G N D		電源ジャックの周囲と接続されている

(b) C N 1 : 電源入力ジャック

上記 (a) の電源入力端子台と内部で接続された電源入力用ジャックです。

端子番号	名称	入出力	備考
センタ	+ 5 V	I N	電源入力コネクタの 1 番と接続されている
周囲	G N D		電源入力コネクタの 3 番と接続されている

[2 - 2 - 2] T B 1 : デジタル入力 / 出力 端子台

本シリーズのバリエーションごとの入力 / 出力の構成を下表に記します。

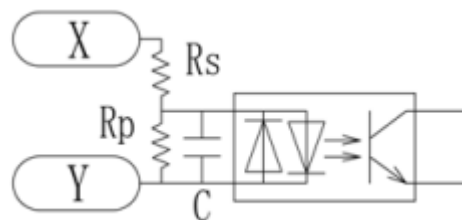
端子名称	LX-3007	LX-3016	LX-3034	LX-3052	LX-3070
D I O 1	$\begin{array}{c} X \\ Y \end{array}$ 出力 1	入力 1	入力 1	入力 1	入力 1
D I O 2	$\begin{array}{c} X \\ Y \end{array}$ 出力 2	出力 2	入力 2	入力 2	入力 2
D I O 3	$\begin{array}{c} X \\ Y \end{array}$ 出力 3	出力 3	入力 3	入力 3	入力 3
D I O 4	$\begin{array}{c} X \\ Y \end{array}$ 出力 4	出力 4	出力 4	入力 4	入力 4
D I O 5	$\begin{array}{c} X \\ Y \end{array}$ 出力 5	出力 5	出力 5	入力 5	入力 5
D I O 6	$\begin{array}{c} X \\ Y \end{array}$ 出力 6	出力 6	出力 6	出力 6	入力 6
D I O 7	$\begin{array}{c} X \\ Y \end{array}$ 出力 7	出力 7	出力 7	出力 7	入力 7

(a) 入力の場合

フォトカブラの入力は本体内部回路とは絶縁されています。フォトカブラをドライブする電源のGNDと本機の電源用電源のGNDを接続すると絶縁されなくなります。

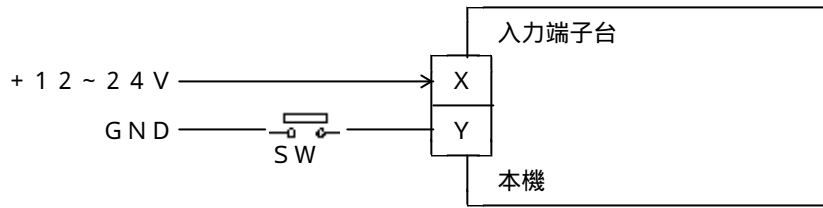
端子名称	入出力	備考
D I O n	X I N	消費電流 8 m A 以下
	Y I N	

内部回路

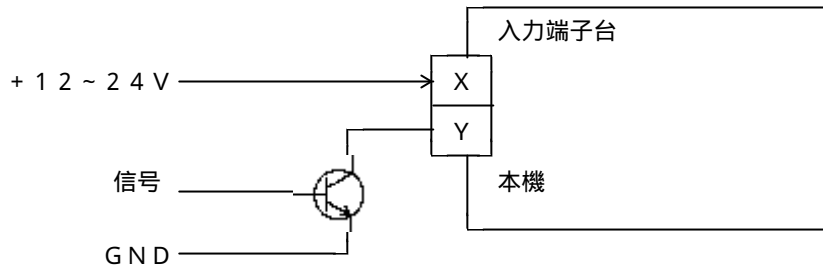


本機の入力端子に監視したい信号源を接続します。

メカニカルSW、リミットSWなどを接続する場合、下図のようになります。



トランジスタなどを接続する場合、下図のようになります。

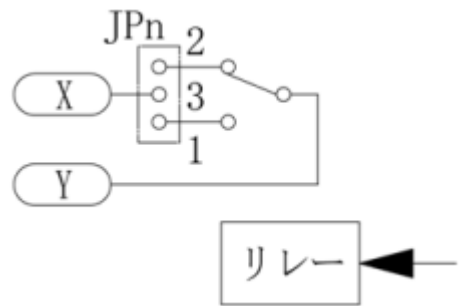


(b) 出力の場合

出力されているリレー接点はメークまたはブレークをジャンパ設定で選択することができます。出荷時はメーク接点が出力されるよう設定されています。

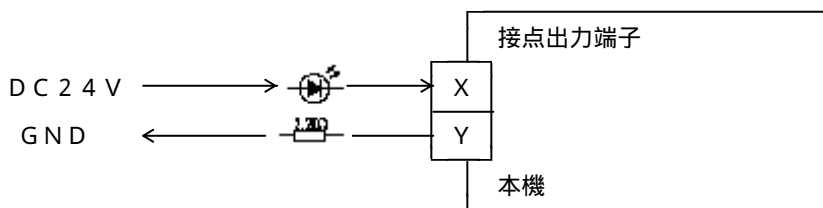
端子名称	入出力	備考
D I O n	X O U T	定格負荷 AC100V/0.4A DC30V/2A
	Y O U T	

内部回路

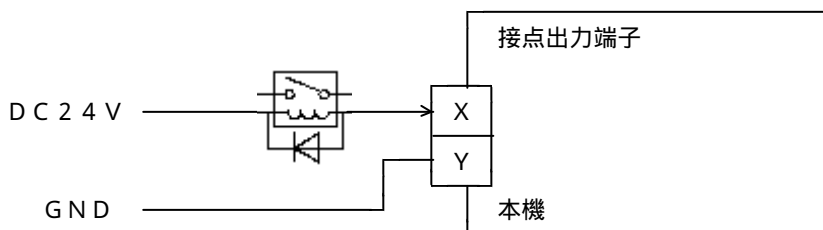


D I O 1	D I O 2	D I O 3	D I O 4	D I O 5	D I O 6	D I O 7
J P 1	J P 2	J P 3	J P 4	J P 5	J P 6	J P 7
1 - 3 をショートでノーマルオープン						
2 - 3 をショートでノーマルクローズ						

本機の入力端子に負荷（例えばLED）を接続します。



本機の入力端子に負荷（例えばリレー）を接続します。



リレーなどのようにL成分を持った負荷の場合、逆起電力による誤動作や雑音の対策が必要になります。上図の例ではリレーのコイルにダイオードを使っています。

[3] 操作方法

[3 - 1] 概要

LX - 3 0 0 0 R o シリーズはイーサネット・TCP / IP を介してパソコンから制御・入出力が可能です。一般的にイーサネット・TCP / IP の取り扱いは煩雑なため、本機を制御するためには専用のDLL を介して行います。

このDLL にはLX シリーズを制御するための関数が揃っており、上位アプリケーションからはTCP / IP を意識することなく使用できます。専用DLL は付属のサンプルプログラムCD に収納されています。

また、イーサネット・TCP / IP 上で本機を使用するには個々に違ったIP アドレスが必要になります。IP アドレスは「aaa.bbb.ccc.ddd」の形式で、同一のネットワーク上で重複して割り当てられてはなりません。弊社から出荷される際に、本機のIP アドレスは自動的にDHCP から取得されるように設定されています。実際に使用される場合は、事前に、そのネットワーク環境に適したIP アドレスに設定し直す必要があります。

[3 - 2] 付属DLL の関数

DLL の動作は下記の環境で確認されています。

OS : Windows 2000 および XP
アプリケーション : VB 6 による付属のサンプルプログラム

本説明中の変数の型は下記の定義として説明しています。

CHAR 符号付き 8ビット整数
SHORT 符号付き 16ビット整数
INT32 符号付き 32ビット整数

[3 - 2 - 1] 初期化・終了

DLL の初期化・終了に関する関数であり、LX - 3 0 0 0 シリーズとの通信はありません。

(a) 初期化

書式	INT32 Lx_Open(Void)
機能	DLLの初期化を行う
引数	なし
戻り値	正常時 : 0 異常時 : 負のエラーコード

(b) 終了

書式	INT32 Lx_Close(void)
機能	DLLの終了処理を行う。
引数	なし
戻り値	正常時 : 0 異常時 : 負のエラーコード

(c) DLLバージョン取得

書式	INT32 Lx_Get_DllVersion(CHAR *dllversion, INT32 size)
機能	size で示す文字数以下のDLLバージョン文字列を受け取る
引数	CHAR *dllversion DLLのバージョン文字列を格納するバッファのポインタ INT32 size 格納するバッファのサイズ
戻り値	正常時 : 0 異常時 : 負のエラーコード

(d) ポート番号の通知

書式	INT32 Lx_Set_PortNo(INT32 Port_No)
機能	通信相手のLX - 3000シリーズのTCP / IP上のポート番号 (Port_No) をDLLに通知する DLLが起動した直後に保持しているポート番号は「10001」となっている
引数	INT32 Port_No 通知するポート番号
戻り値	正常時 : 0 異常時 : 負のエラーコード

(e) ポート番号の確認

書式	INT32 Lx_Get_PortNo(void)
機能	DLLが保持しているポート番号を知る DLLの起動直後のポート番号は「10001」となっている
引数	なし
戻り値	正常時 : ポート番号 異常時 : 負のエラーコード

[3 - 2 - 2] LX - 3000シリーズとの通信

DLLを介して実際にLX - 3000シリーズとの通信を行います。

(a) IPアドレスの読み取り

書式	INT32 Lx_Get_IPAddress(CHAR *macaddress, CHAR *ipaddress, INT32 size)
機能	MAC アドレスで指定されたハードウェアの、現在割り当てられている IP アドレスを読み出す
引数	CHAR *macaddress MACアドレス文字列を格納するバッファのポインタ CHAR *ipaddress IPアドレス文字列を格納するバッファのポインタ INT32 size 格納するバッファのサイズ (16 以上必要)
戻り値	正常時 : 0 異常時 : 負のエラーコード

(b) 出力ビットの出力 (リレー接点のオン / オフ制御)

書式	INT32 Lx_Output(CHAR *strIP, INT32 OutVal)
機能	出力接点リレーの制御 (オン / オフ) 接点選択ジャンパが「NO」の場合は 出力端子の接点をON (クローズ) / OFF (オープン) に設定する 接点選択ジャンパが「NC」の場合は 出力端子の接点をON (オープン) / OFF (クローズ) に設定する
引数	CHAR *strIP IPアドレス文字列を格納するバッファのポインタ INT32 OutVal 各リレーのON (1) / OFF (0) にビット対応した形の0 ~ 127の数値
戻り値	正常時 : 0 異常時 : 負のエラーコード

(c) 入出力ビットの読み込み

書式	INT32 Lx_Input(CHAR *strIP, INT32 *InpVal, INT32 *StaVal)
機能	入出力端子の現在の状態を読み出す
引数	CHAR *strIP IPアドレス文字列を格納するバッファのポインタ INT32 InpVal 各リレーのON (1) / OFF (0)、および、フォトカプラ入力のON (1) / OFF (0) にビット対応した形の0 ~ 127の数値 INT32 StaVal InpVal 中の各ビットがリレー (0) かフォトカプラ (1) かを表す
戻り値	正常時 : 0 異常時 : 負のエラーコード

(d) 入出力ビットの読み込み、および出力ビットの出力

書式	INT32 Lx_InOut(CHAR *strIP, INT32 OutVal, INT32 *InpVal, INT32 *StaVal)
機能	指定された入力端子の現在の状態を読み出す
引数	CHAR *strIP IPアドレス文字列を格納するバッファのポインタ INT32 OutVal 各リレーのON(1)/OFF(0)にビット対応した形の0~127の数値 INT32 InpVal 各リレーのON(1)/OFF(0)、および、フォトカプラ入力のON(1) /OFF(0)にビット対応した形の0~127の数値 INT32 StaVal InpVal 中の各ビットがリレー(0)かフォトカプラ(1)かを表す
戻り値	正常時: 0 異常時: 負のエラーコード

*: 出力ビット、入出力ビットの変数の見方

本機の入出力に関する関数の変数は各入出力(DIO_n)に対応してビット単位で表現します。いずれの変数も下位のビットから順にDIO1から対応しています。

出力変数(OutVal)の場合、リレー出力のDIO_nに相当するビットのみが有効で、フォトカプラ入りに相当するビットは無視されます。

入力変数(InpVal)の場合、出力リレーの状態(オン・オフ)とフォトカプラ入りの状態が対応するビットに反映されています。
両方(入力、出力)の状態が反映されている入力変数とStaValをANDするとフォトカプラの状態のみを抜き出すことができます。

	DIO7	DIO6	DIO5	DIO4	DIO3	DIO2	DIO1
OutVal	出力リレーに対応したビットのみが有効						
InpVal	出力リレー、フォトカプラ入力共に有効						
StaVal	フォトカプラ入力ビットのみが1になっている						

DIO_nの入力/出力については
[1-1]機能の紹介
[2-2-2]デジタル入力/
出力端子台
の項を参照して下さい。

[3 - 2 - 3] エラーコード

戻値 / エラーコード	エラー内容	対処例
0	エラーなし、正常終了	
- 1 0	システム異常 他のアプリがソケットを上限まで使った上でDLLを呼んだ場合などに起こりうる。	ネットワークリソースを多用している他のアプリケーションを終了させるなどの処理を行った後、再度、試してみる。
- 1 1	システム異常 Windows 95 OSR2 以前の古いバージョンの Windows で動かした時に発生する場合がある。	Windows 9x での動作を保証できませんので Windows 2000, Windows XP などを使って下さい。
- 1 2	システム異常 ネットワークアダプタに関する情報を取得する WSASocket 関数が失敗した時に発生する。	ネットワークリソースを多用している他のアプリケーションを終了させるなどの処理を行った後、再度、試してみる。
- 1 3	システム異常 ネットワークアダプタに関する情報を取得する WSALoctl 関数が失敗した時に発生する。	
- 1 4	システム異常 ネットワークが使用できない	ネットワークが正しく使用できる環境にしてから再度試してみる。
- 1 5	システム異常 ネットワークインターフェースの数が一つでない場合に発生。(たとえばLANカードが2枚入っている、イーサネット+ダイヤルアップ接続している、VPN接続を行っている等)	複数のネットワークインターフェースが存在しても稼働中でなければこのエラーは発生しないので、例えば、使用しないLANカードからLANケーブル抜く、ダイヤルアップを切断するなどの処置を行う。
- 1 0 0	ステート異常(入力異常) Lx_open 前、Lx_open 失敗時、Lx_close 後にその他の関数を呼び出した場合に発生する。(但し、Lx_Get_DLLVersion を除く)	関数使用前に Lx_Open を呼び出して下さい。
- 1 0 1	通信異常 指定したIPアドレスのデバイスに接続できない。	本機のMACアドレス・IPアドレスを、又は、PCと本機間のLANケーブル・ハブの状況を確認して下さい。
- 1 0 2	システム異常	再起動後に試してみる。または他のPCで試してみる。
- 1 0 3	システム異常	再起動後に試してみる。または他のPCで試してみる。
- 1 0 4	システム異常	再起動後に試してみる。または他のPCで試してみる。
- 1 0 6	通信異常 Winsock関数呼び出し後、SOCKET_ERROR が発生した場合のエラー(指定IPアドレスのデバイスに接続できない場合など)	PCから本機までのケーブルルートに不具合が無いか、確認をする。
- 1 0 7	システム異常	再起動後に試してみる。または他のPCで試してみる。
- 1 0 8	指定IPアドレスへの接続準備に失敗した。	
- 2 0 0	指定IPアドレスへの送信準備に失敗した。	
- 2 0 1	通信異常 Winsock関数呼び出し後、SOCKET_ERROR が発生した場合のエラー。他のユーザがアクセス中のデバイスにアクセスした時に発生する。	他のアプリケーションからのアクセスがない環境で再度試す。 本機の電源を一度 ON/OFF してから試す。
- 3 0 0	DLL内部の問題	発生状況のご連絡をお願いします。
- 3 0 1	通信異常 ソフトのバグ、本機側ハードウェア異常、本機以外のデバイスと通信しようとした。	指定のMACアドレスが確かに本機のものか確認して下さい。本機の電源がONになっているか、使用電源が仕様に合っているか、確認して下さい。
- 3 0 2	送信準備に失敗。受信準備に失敗。	
- 3 0 3	通信異常 Winsock関数呼び出し後、SOCKET_ERROR が発生した場合のエラー(指定IPアドレスからの受信ができなかった場合)	

- 3 0 4	指定 I P アドレスからの受信に失敗した。	
- 4 0 0	送信や受信の最終処理に失敗した。	
- 5 0 0	M A C アドレスから I P アドレスを探す場合の準備に失敗した。	
- 5 0 1	システム異常。 ソケットが生成できない。	再起動後に試してみる。または他のPCで試してみる。
- 5 0 8	M A C アドレスから I P アドレスを探す場合の終了処理に失敗した。	
- 5 0 7	通信異常 Winsock 関数呼び出し後、SOCKET_ERRORが発生した場合のエラー	
- 5 0 9	通信異常 Winsock 関数呼び出し後、SOCKET_ERRORが発生した場合のエラー	
- 5 1 0	M A C アドレスから I P アドレスを探す場合に失敗した。	
- 5 1 1	M A C アドレスから I P アドレスを探す場合に失敗した。	
- 5 1 2	D L L 内部の問題	発生状況のご連絡をお願いします。
- 5 1 3	D L L 内部の問題	発生状況のご連絡をお願いします。
- 1 0 0 5	入力異常 入力変数が範囲外だった場合や不正な場合にこのエラーが発生する。	入力変数の数値範囲やフォーマットを確認して下さい。M A C アドレスの場合、英文字は大文字を使用して下さい。I P アドレスを受け取る文字バッファは16文字分以上が必要です。
- 1 0 0 7	入力異常 入力された I P アドレスが、自分の I P 到達範囲内でない場合に発生する。	設定する P C から接続可能な I P アドレスを指定してください。 P C のネットマスク・I P アドレスと本機の I P アドレスの関係を確認して下さい。
- 1 0 0 8	指定した M A C アドレスを持つデバイスが見つからなかった。	デバイスの M A C アドレスや I P アドレスを確認して下さい。P C とデバイス間の L A N ケーブルやハブの状況を確認して下さい。

[3 - 3] I P アドレスの設定

LX - 3 0 0 0 シリーズをパソコンからアクセスするためには I P アドレスが既知でなければなりません。本機は出荷時に D H C P 機能と A u t o I P 機能による「 I P アドレスの自動」取得設定となっています。自動的に取得された I P アドレスは付属の D L L の「 I P アドレスの読み取り」関数で知ることができます。

自動的に取得された I P アドレスは電源の再投入や D H C P のアドレス貸し出し期間切れにより変わってしまうことがあり、それはシステム上、不都合な場合があります。

本シリーズの製品を常に同一の I P アドレスでアクセスするためには固定した I P アドレスを設定する必要があります。その方法を以下に記します。

[3 - 3 - 1] デバイスインストーラのインストール

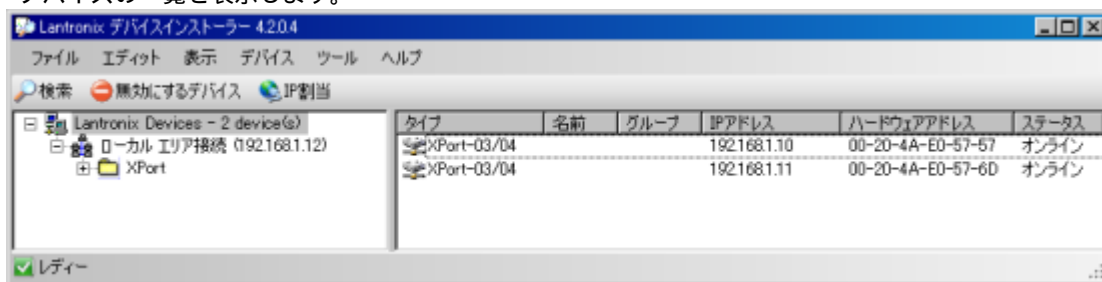
付属の C D 中の「 LX3000¥DeviceInstaller 」フォルダにある「 Setup.exe 」をダブルクリックまたはその他の方法で起動して下さい。

本機に搭載されているイーサネットデバイス専用のユーティリティのインストールが開始されます。オープニング画面が表示されたらインストールウィザードの案内にしたがってインストールを進めて下さい。

[3 - 3 - 2] 本シリーズ製品の I P アドレス設定方法

デバイスインストーラを使って本機への固定 I P アドレスの設定は以下の手順によります。

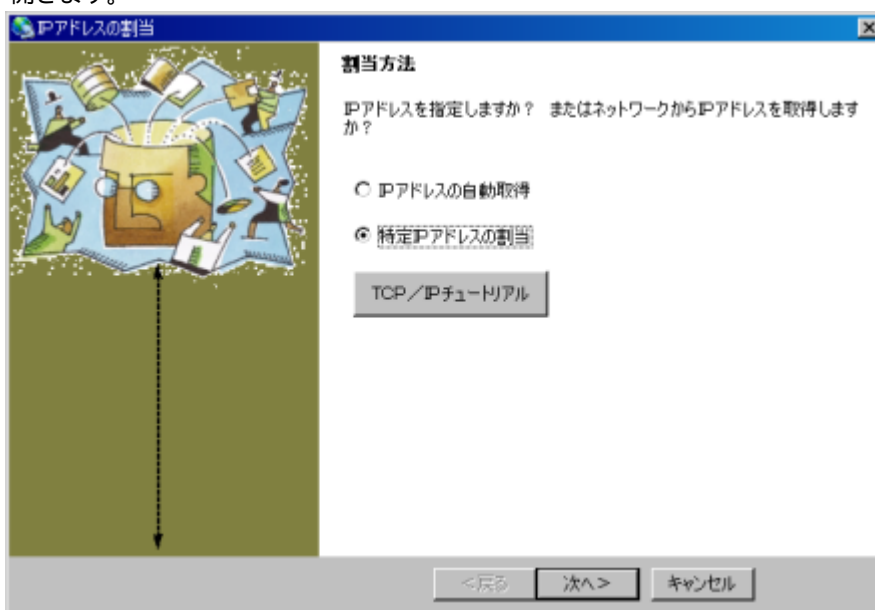
- (1) 本機をネットワークに接続し電源を投入します。
- (2) 本機を接続したネットワーク内のパソコンのデバイスインストーラを起動します。
- (3) デバイスインストーラは起動すると自動的にネットワークデバイスを検索し、数秒後に検索されたデバイスの一覧を表示します。



検索結果は上図のように表示されますので目的の本機が表示されているかをハードウェアアドレス (M A C アドレス) で確認します。

(目的の本機が表示されていない場合、念のため [検索] ボタンで再度検索してみてください)

- (4) 検索結果の中から目的の本機をハイライトし、 [I P 割当] ボタンで「 I P アドレスの割当」画面を開きます。



本機に固定した I P アドレスを設定するために「 特定 I P アドレスの割当」を選択し、 [次へ >] ボタンをクリックし、次のページを開きます。

- (5) 次のページ「 I P 設定」では希望の I P アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの値を入力し、 [次へ >] ボタンで次のページを開きます。
- (6) 次の「割当」ページでは [割当] をクリックすると本機への設定が行われますがこの作業には数秒の時間が必要です。終了したら最初の画面に戻り、検索結果を表示して確認して下さい。